

リニアで登山者の聖地・南アルプスを壊さないで！

登山者や大鹿村在住者がリニア反対のアピール発表、賛同署名は3912筆



4月10日午後、国会内でリニア新幹線を考える登山者の会と、「リニアで南アルプスを壊さないで」アピール実行委員会による記者会見が行われました。

主催者側からはフリーライターの宗像充さん、登山者の会の山田哲也さん、長野県大鹿村在住の前島久美さん、南アルプスとリニア新幹線を考える市民ネットワーク共同代表の服部隆さん、日本勤労者山岳連盟会長の西本武志さんの5人が出席しました。

山田さんによりますと、登山家たちがリニアについて学習し、大鹿村など工事箇所を見学するにつれ、登山者たちが愛する南アルプスに長大トンネルを掘って、自然が壊されるのではないかという疑問を強くした。そして、登山者や溪流釣り愛好者がリニア建設に反対するにはどうしたらいいのかを話し合い、『「リニアで南アルプスを壊さないで」アピール』をつくって賛同署名を集めようと昨年11月から活動してきたということです。アピールの呼びかけ人にはプロのクライマーや山岳ガイドなど24人が参加し、これまでに3912筆の賛同署名が集まりました。

今回の署名はこれで締め切り、JR東海と国交省、沿線の自治体などに提出する予定です。

以下、記者会見での出席者のコメントの趣旨を紹介します。

◆南アルプスの地殻変動は年間数ミリと世界最大規模で、トンネル掘削で想定外のことが起る

山田哲也さん 「これからも南アルプスの素晴らしさを人々に知らせ、そこにトンネルを掘るとどうなるのか、リニアについて利便性とは違う角度から見て行きたい。南アルプスの地殻変動は年間数ミリと世界最大規模であり、トンネルを掘れば想定外のことが起るのではないかと心配だ」

◆リニアは鉄道版オスプレイだ。大阪・名古屋・東京の人間が利用するもので登山者には必要ない

宗像 充さん 「私は山岳記事を中心に書いてきた。JR東海は昨年11月、村民の理解は得られたとして、村民が反対の声を上げる中で着工式を強行した。またリニア工事のため県は村内の保安林解除の予定告示を行った。これに対して、村民を含む180人が異議申し立てを行っている。リニアは危険であり鉄道版オスプレイだ。利用するのは大阪・名古屋・東京の人間だけで、登山者にとっては必要が無い」

◆前島久美さん 「大鹿村生まれでずっと住んでいる。リニア新幹線を住民目線で見ると、①リニアありきで進められて来ており住民無視だ。②工事規模が大きく村の形が変わってしまう。③10年我慢すれば元の村に戻るのか、そうはならない。地下水や工事車両の影響は大きい。反対を言い続けなければならない」

◆登山家として山で人生を培ってきた。今は恩返しをする時が来た

服部 隆さん 「大井川の水枯れが心配。JR東海は上流で毎秒2トン減水というが、実際それで済むかわからない。私たちは山で人生を培ってきた。リニア工事反対で今、山に恩返しする時が来た」

◆リニアは最大の自然破壊行為。こんなものがまかり通れば日本社会は闇だ

西本武志さん 「戦前、東京オリンピックめざして富士山にロープウェイを架ける計画が出され、日本山岳会など登山家は暴挙だと猛反対した。リニアでそのことを思い返した。リニアは最大の自然破壊行為であり、こんなものがまかり通れば日本社会は闇になってしまう」

(別掲のアピールのチラシについてはリニア新幹線を考える登山者の会にお問合せ下さい)

